

第39回

北区河川生物生息調査

報告書

令和4年度

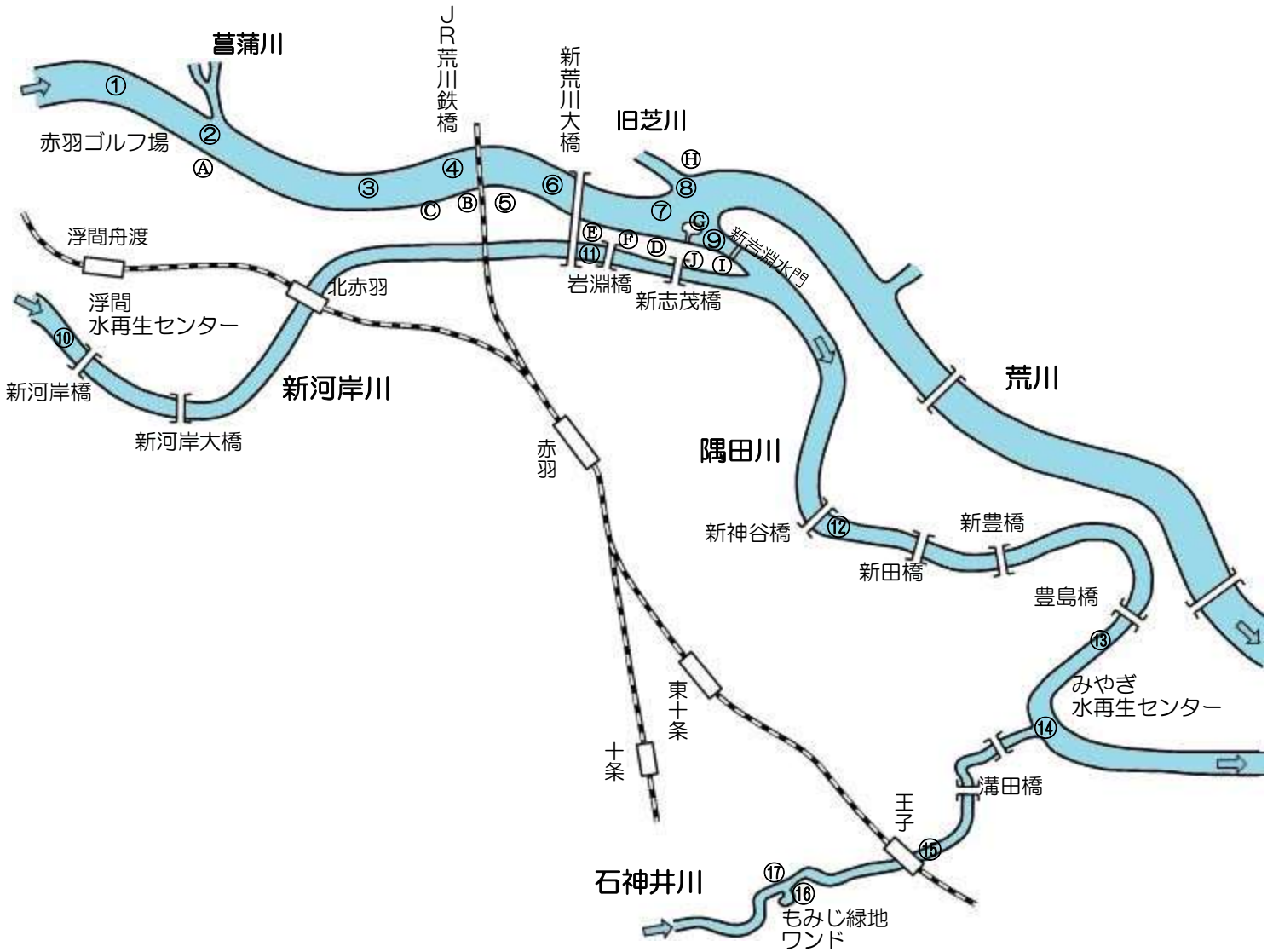


令和5年3月

北 区

北区河川生物生息調査地点図（令和4年度）

釣り調査地点 A～J
投網調査地点 ①～⑰



投網調査地点

◎令和4年9月12日 ☆9月26日 ★10月11日

[荒川]

- ◎★-①戸田橋下流
- ◎★-②菖蒲川荒川合流点付近
- ◎★-③JR 荒川鉄橋上流 200-400m 付近
- ◎-④JR 荒川鉄橋付近
- ☆-⑤荒川子どもの水辺ワンド（流出水路も含む）
- ◎-⑥新荒川大橋下
- ◎-⑦新荒川大橋下流 600-800m 付近
- ◎★-⑧旧芝川荒川合流点付近
- ◎★-⑨旧岩淵水門・新岩淵水門中間

[新河岸川]

- ★-⑩浮間水再生センター排水口付近
- ★-⑪新荒川大橋・岩淵橋中間

[隅田川]

- ◎-⑫新神谷橋付近
- ◎-⑬豊島橋付近
- ◎-⑭みやぎ水再生センター付近

[石神井川]

- ◎-⑮石神井川王子駅下トンネル内
- ☆-⑯もみじ緑地ワンド
- ☆-⑰もみじ緑地ワンド横本流

釣り調査地点

令和4年10月11日

[荒川]

- A 菖蒲川荒川合流点右岸
 - B JR 荒川鉄橋付近右岸
 - C JR 荒川鉄橋上流 50m 付近右岸
 - D 新荒川大橋下流 300m 付近右岸
 - E 新荒川大橋下流 50m 付近右岸
 - F 新荒川大橋下流 200m 付近右岸
 - G 荒川赤水門緑地
 - H 旧芝川荒川合流点付近
- ### [新河岸川]
- I 新志茂橋下流 100m 付近左岸
 - J 新志茂橋付近左岸

はじめに

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、令和4年度に実施した第39回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、一澤成典氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

北区では北区内の河川に生息している魚類を把握するため、令和4年9月～10月にかけて計3回魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種（以下種類とする）の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は令和4年9月12日に、荒川・隅田川・石神井川で、船からの投網による調査をしました。

第2回調査は令和4年9月26日に、石神井川もみじ緑地ワンド・ワンド横の石神井川本流と、荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。荒川子どもの水辺ワンドでは、北区環境リーダー養成講座修了生が参加し、自然環境について学びました。

第3回調査は令和4年10月11日に、荒川・新河岸川で、北区釣魚連合会の協力による釣り、船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月12日	魚類生息状況	船からの投網	荒川 隅田川 石神井川
第2回	9月26日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第3回	10月11日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り・船からの投網	荒川 新河岸川

[石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）]

すり鉢状の護岸構造のため川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が定着しやすいようになっています。調査時は、過去に持ち込まれたハスが繁茂し、水面が減少していました。

[荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）]

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。平成26年度には、国土交通大臣表彰の「手づくり郷土賞」一般部門に選定されました。また、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。令和2年度には、ボランティア団体である「北区・子どもの水辺協議会」が「第22回日本水大賞」審査部会特別賞を受賞いたしました。



【調査結果】

3日間の調査で30種類 1014尾が確認され、例年に比べ個体数が多い結果となりました。調査を始めてから今までに確認された魚種は59種類となりました。

東京都レッドリスト記載種は9種類、環境省レッドリスト記載種は5種類、外来種は5種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

石神井川・石神井川もみじ緑地ワンドなどで確認されたアブラハヤ・シマドジョウ・メダカ・ギバチは、元々この川には生息せず、多くの魚種は川での流程分布も異なるため、明らかに人為的放流によるものと考えられます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系に様々な影響を及ぼす可能性があるため、絶対に行うべきではありません。



手網によるワンド調査（石神井川もみじ緑地ワンド）



手網によるワンド調査（荒川子どもの水辺ワンド）



船からの投網（荒川）



釣りによる採集（協力：北区釣魚連合会）

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考
				荒川	子どもの水辺 ワンド			石神井川	もみじ緑地 ワンド		
1	ニシン	ニシン	コノシロ	26		4			30		
2	コイ	コイ	タモロコ					4	4	国内移殖種	
3			モツゴ		27				27	54	
4			ニゴイ	10			1			11	
5			カマツカ	1						1	
6			アブラハヤ**						327	327	国内移殖種※
7			ウグイ						1	1	
8			マルタ	4	2			3		9	
9			オイカワ	1	2				77	80	
10			ハス	4	1					5	国内移殖種
11			ギンブナ		12				1	13	
12			ゲンゴロウブナ		6					6	国内移殖種
13			タイリクバラタナゴ		81					81	外来種
14			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ				1	19	20
15		シマドジョウ**							18	18	国内移殖種※
16	ナマズ	ギギ	ギバチ**				3	11	14	国内移殖種	
17	ダツ	メダカ	メダカ*					2	2	国内移殖種※	
18	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ		53			4	57	特定外来種	
19	ボラ	ボラ	ボラ	23	58	3	1		85		
20	スズキ	スズキ	スズキ	33		1		1	35		
21			タイ	キチヌ	1					1	
22		サンフィッシュ	ブルーギル	2	28				30	特定外来種	
23			オオクチバス		1				1	特定外来種	
24			コクチバス	1					1	特定外来種	
25		ハゼ	アベハゼ	アベハゼ		3				3	
26				クロダハゼ					1	1	
27				ヌマチチブ		33		4		37	
28				シモフリシマハゼ		8		1		9	
29				マハゼ	25	1	2	10		38	
30	アシシロハゼ		40					40			
7目11科30種類			個体数合計	131	356	10	17	8	492	1014	
			種類数	12	16	4	5	4	12		

※ 国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

* 東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

** 荒川水系の天然分布種だが、本流からの遡上はできないので、人為的な放流と思われる

【外来種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているカダヤシは在来のメダカとの棲息場所や餌の競合が懸念されています。ブルーギルは小型魚類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	○					●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○			○	●	●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○				●	●
		オオクチバス	○				●	●
		コクチバス	○				●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト2020及び東京都レッドリスト(2020年版)の選定基準で指定されている種。東京都レッドリストは区部の評価を基準としました。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都レッドリスト	環境省レッドリスト	国内移殖種
コイ	コイ	ニゴイ	○		○		準絶滅危惧		
		アブラハヤ※				○	絶滅危惧Ⅱ類		○
		マルタ	○			○	準絶滅危惧		
		ハス	○					絶滅危惧Ⅱ類	○
		ゲンゴロウブナ	○					絶滅危惧ⅠB類	○
	ドジョウ	ドジョウ				○		準絶滅危惧	
		シマドジョウ※				○	絶滅危惧Ⅱ類		○
ナマス	ギギ	ギバチ※			○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○	
ダツ	メダカ	メダカ*			○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○	
スズキ	ハゼ	アベハゼ	○				準絶滅危惧		
		ヌマチチブ	○		○		準絶滅危惧		
		アシシロハゼ	○				準絶滅危惧		

※荒川水系の天然分布種だが、本流からの溯上はできない。また都市河川である石神井川では、国内他水域からの人為的放流の可能性が極めて高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2020年版」（東京都環境局）
絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実に考えられるもの
準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
留意種：現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの
「環境省レッドリスト2020【汽水・淡水魚類】」
絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素を有するもの

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀とPCBの量を分析しました。その結果、全検体で総水銀とPCBが検出されましたが、暫定的規制値以下でした。

令和4年10月11日採集

	魚類名	捕獲河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	スズキ	荒川	戸田橋下流	0.29	0.25
2	スズキ	荒川	新荒川大橋下流 50m付近右岸	0.19	0.28
3	スズキ	荒川	旧芝川荒川合流点付近	0.19	0.27
4	ボラ	新河岸川	新志茂橋付近左岸	0.04	0.39
5	ニゴイ	新河岸川	新志茂橋付近左岸	0.09	0.50
6	マハゼ	新河岸川	新志茂橋付近左岸	0.05	0.13

- (備考) 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
3.分析部位の可食部については、数匹の可食部を混合したものである。
4.暫定的規制値
 • 総水銀…0.4mg/kg
 • PCB (可食部のみ) 内海魚…3mg/kg
5.試験方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

【資料】

第1回投網調査の結果（令和4年9月12日）

(1)荒川
戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	オイカワ	56	46	1
2	ハス	82	68	1
3	ボラ	116~146	93~116	4
4	マハゼ	95~120	76~98	3

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	123~247	100~203	3
2	マルタ	105~125	92~103	2
3	ボラ	116~163	95~134	8
4	スズキ	373	304	1
5	マハゼ	90~110	73~87	5

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	222	185	1
2	マハゼ	98~120	80~98	2

JR荒川鉄橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ハス	105	86	1
2	マハゼ	92~113	73~95	2

新荒川大橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	88~92	67~73	2

新荒川大橋下流600-800m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	127	106	1
2	マハゼ	105~120	78~103	4

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	88~112	74~94	8
2	ニゴイ	71~140	50~114	2
3	ボラ	115~159	95~128	5
4	スズキ	212	172	1
5	マハゼ	101	80	1

旧岩淵水門・新岩淵水門中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	103~116	82~92	2
2	ボラ	100	81	1
3	マハゼ	121~138	96~110	2

(2)隅田川

新神谷橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	123~137	101~111	3
2	マハゼ	106~117	85~92	2

豊島橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	430	350	1

みやぎ水再生センター付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	100~105	78~84	4

(3)石神井川

石神井川王子駅下トンネル内

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	365~480	300~395	3
2	スズキ	383	310	1

第2回投網・手網調査の結果（令和4年9月26日）

(1)石神井川
もみじ緑地ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	20~50	17~39	4
2	モツゴ	57~88	47~72	27
3	アブラハヤ	20~60	17~53	327
4	ウグイ	43	34	1
5	オイカワ	15~53	13~43	77
6	ギンブナ	117	95	1
7	ドジョウ	30~87	27~74	19
8	シマドジョウ	21~67	19~58	18
9	ギバチ	34~47	28~39	11
10	メダカ	20~24	17~20	2
11	カダヤシ	18~33	14~28	4
12	クロダハゼ	48	39	1

もみじ緑地ワンド横本流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ドジョウ	125	111	1
2	ギバチ	40~44	33~36	3

(2)荒川

荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	50~87	38~68	25
2	マルタ	17~121	14~99	2
3	オイカワ	34	29	1
4	ハス	69	55	1
5	ギンブナ	23~136	19~108	12
6	ゲンゴロウブナ	82~109	62~80	6
7	タイリクバラタナゴ	33~57	24~47	81
8	カダヤシ	8~40	6~33	48
9	ボラ	73~120	59~98	58
10	ブルーギル	42~75	37~58	3
11	オオクチバス	156	123	1
12	アベハゼ	23~35	20~30	3
13	アマチチブ	25~63	21~52	29
14	シモフリシマハゼ	29~46	23~43	6
15	マハゼ	122	97	1

荒川子どもの水辺ワンド流出水路

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	24~28	20~24	2
2	オイカワ	15	13	1
3	カダヤシ	19~33	16~25	5
4	ブルーギル	22~55	18~42	25
5	アマチチブ	18~53	14~45	4
6	シモフリシマハゼ	35~45	29~38	2
7	アシシロハゼ	27~34	21~27	40

第3回投網調査の結果（令和4年10月11日）

(1)荒川

戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	143	114	1
2	スズキ	466	360	1

葛蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	82~118	68~95	8
2	ハス	83	69	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	カマツカ	70	58	1
2	ボラ	147~148	118~123	2

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	109~110	90~94	2
2	ニゴイ	86	73	1
3	マハゼ	109~139	88~110	3

旧岩淵水門・新岩淵水門中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	87~120	70~96	4
2	ニゴイ	137~241	112~197	2
3	ハス	155	123	1
4	ボラ	113~126	90~97	2
5	コクチバス	320	273	1

(2)新河岸川

浮間水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
採取できず				

新荒川大橋・岩淵橋中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
採取できず				

第3回釣り調査の結果（令和4年10月11日）

(1)荒川

A. 葛蒲川荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	180	147	1

B. JR荒川鉄橋付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	87	74	1

C. JR荒川鉄橋上流50m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	168~200	135~165	3
2	ブルーギル	145	113	1

D. 新荒川大橋下流300m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	125	99	1

E. 新荒川大橋下流50m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	177~205	139~169	7

F. 新荒川大橋下流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	174~228	121~184	2
2	スズキ	168~215	140~173	4
3	ブルーギル	173	142	1

G. 荒川赤水門緑地

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	184	159	1
2	マハゼ	120	98	1

H. 旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	160~353	130~290	14
2	キチヌ	174	141	1

(2)新河岸川

I. 新志茂橋下流100m付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	122~140	100~112	6

J. 新志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	340	279	1
2	ボラ	342	255	1
3	ヌマチチブ	62~68	50~56	4
4	シモフリシマハゼ	52	41	1
5	マハゼ	115~145	90~112	4

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<1> サッパ



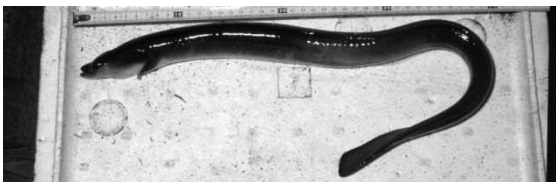
<2> コノシロ



<3> カライワシ



<4> ウナギ



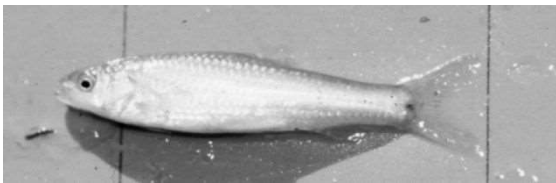
<5> アユ



<6> ワカサギ



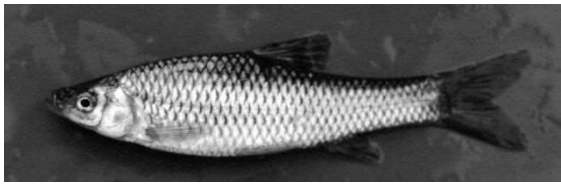
<7> タモロコ



<8> スゴモロコ



<9> モツゴ



<10> ニゴイ



<11> カマツカ



<12> ツチフキ



<13> アブラハヤ



<14> ウグイ



<15> マルタ



<16> カワムツ



北区で見られる魚たち 2 -河川生物生息調査で捕れた種類-

<17> オイカワ



<25> ゲンゴロウブナ



<18> ハス



<26> キンギョ



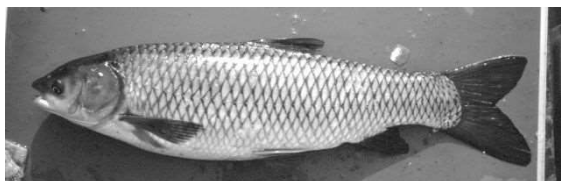
<19> ワタカ



<27> コイ



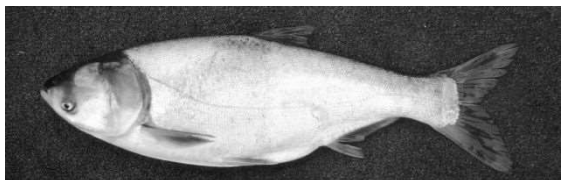
<20> ソウギョ



<28> ヤリタナゴ



<21> ハクレン



<29> アカヒレタビラ



<22> コクレン



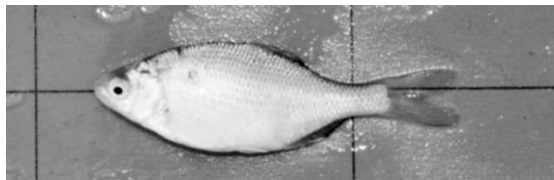
<30> タイリクバラタナゴ



<23> キンプナ



<31> ゼニタナゴ



<24> ギンブナ



<32> ドジョウ

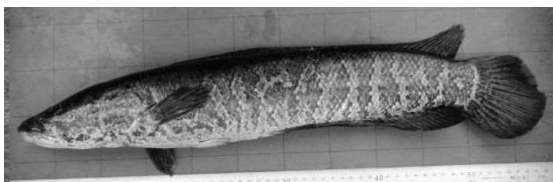


北区で見られる魚たち 3 -河川生物生息調査で捕れた種類-

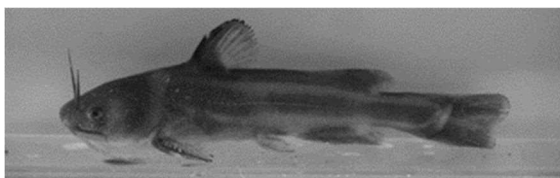
<33> シマドジョウ



<41> カムルチー



<34> ギバチ



<42> スズキ



<35> ナマズ



<43> キチヌ



<36> メダカ



<44> オオクチバス ※特定外来生物



<37> クルメサヨリ



<45> コクチバス ※特定外来生物



<38> カダヤシ ※特定外来生物



<46> ブルーギル ※特定外来生物



<39> グッピー



<47> ヒイラギ



<40> ボラ



<48> シマイサキ



北区で見られる魚たち 4 -河川生物生息調査で捕れた種類-

<49> コトヒキ



<50> アベハゼ



<51> ヒナハゼ



<52> クロダハゼ



<53> ウロハゼ



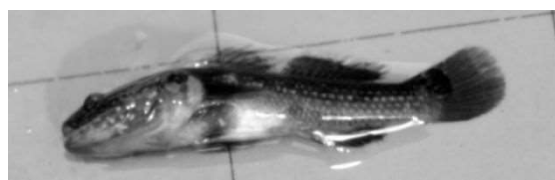
<54> ウキゴリ (淡水型)



<55> ビリンゴ



<56> ヌマチチブ



<57> シモフリシマハゼ



<58> マハゼ



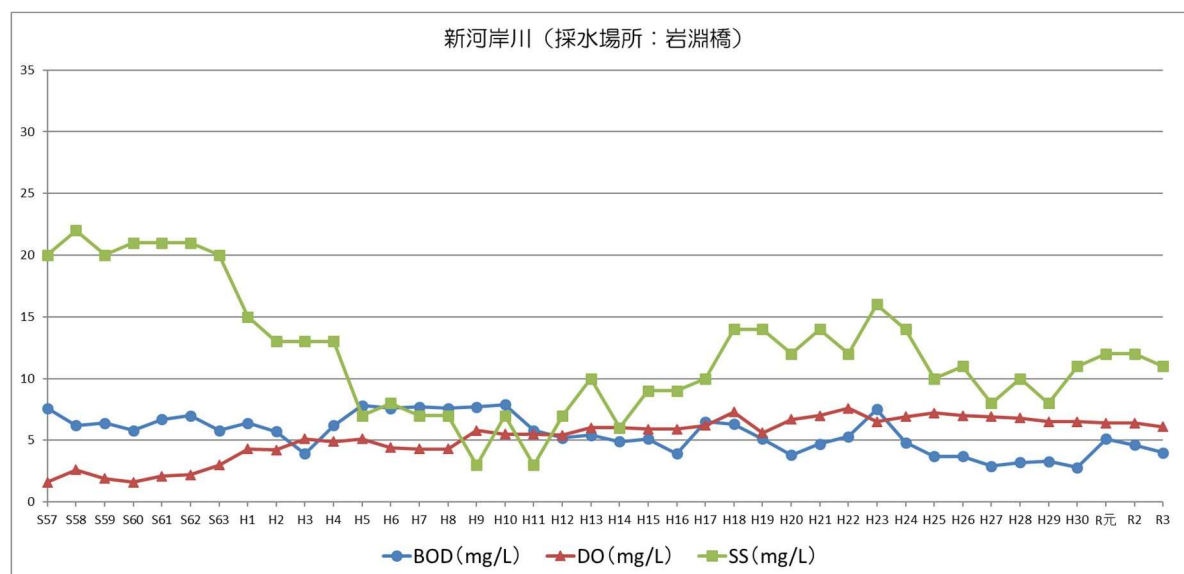
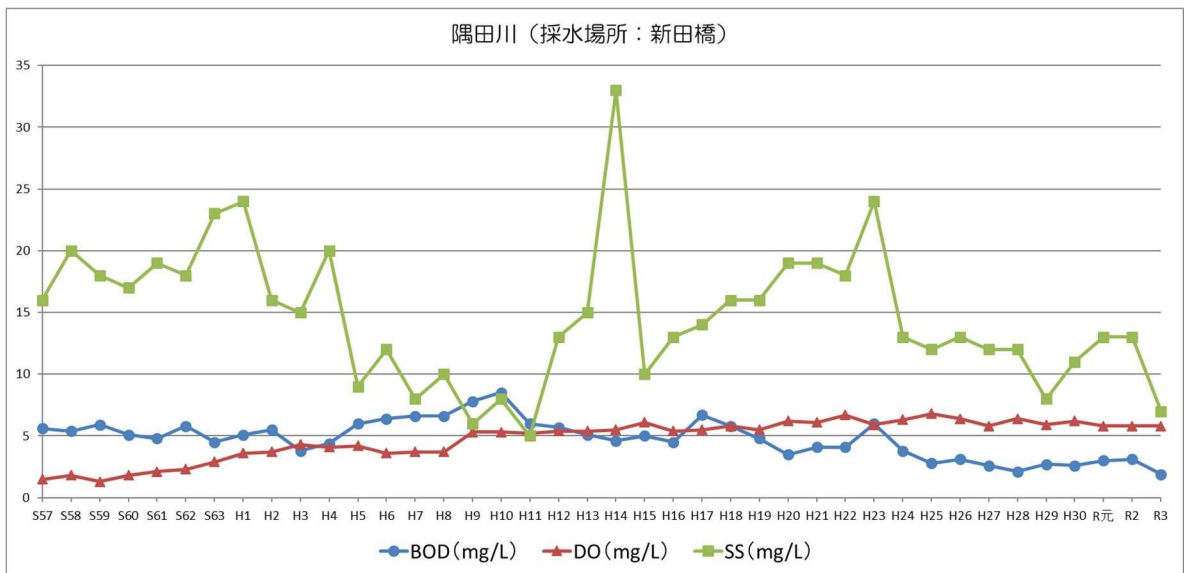
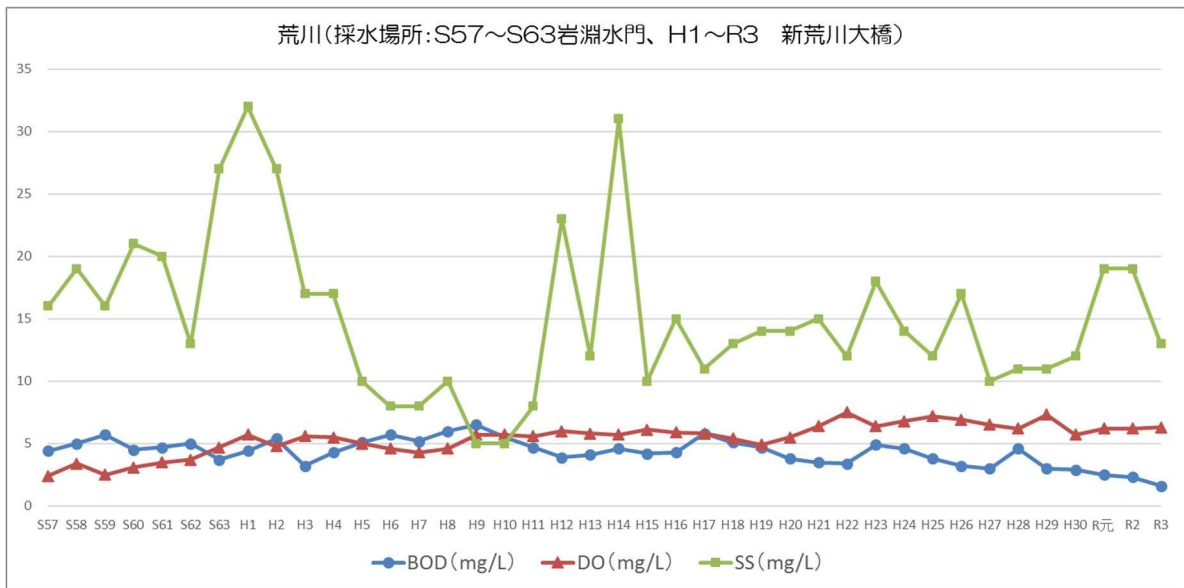
<59> アシシロハゼ

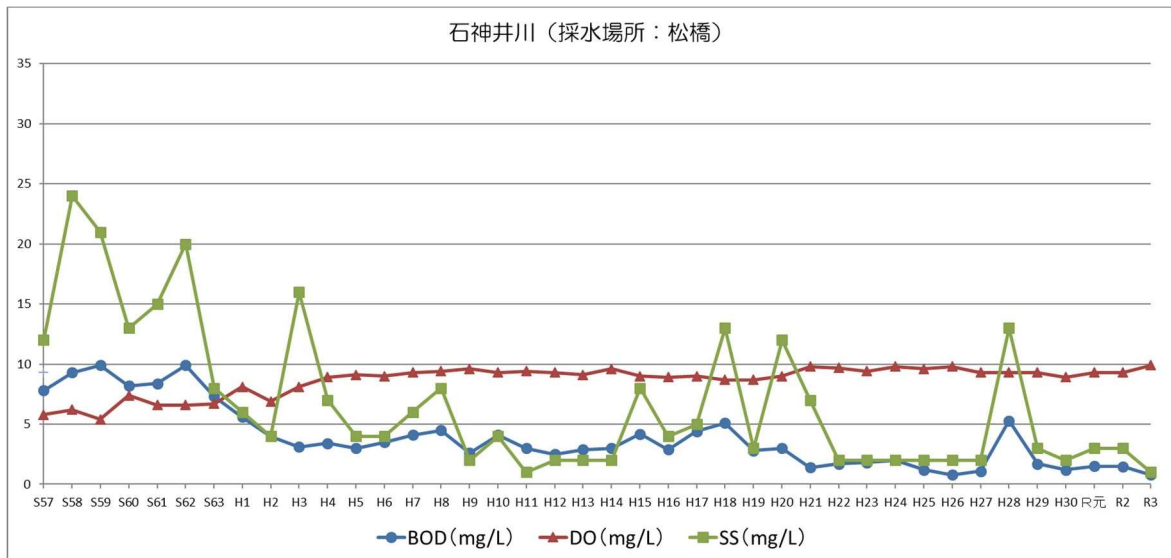


君塚芳輝氏撮影：

1,11,14,16,23,28,33,38,48,49,50,52,55

【河川水質の経年変化（年平均値）】





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
B	石神井川	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上
C	荒川	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上
	隅田川				
	新河岸川				

※類型は東京都告示第 463 号（平成 29 年 3 月 17 日）により指定されている。

- 水素イオン濃度 (pH) :
液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量 (BOD) :
水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質 (SS) :
水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川にSSが多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量 (DO) :
水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚類は生存できません。



北区河川生物生息調査報告書

令和5年3月発行

刊行物登録番号

4-1-152

発行／北区生活環境部環境課

〒114-0002

東京都北区王子1-12-4

TIC王子ビル 2階

TEL 03(3908)8618(直通)



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

この冊子内の紙面には、古紙パルプ配合率70%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。